様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　５月２０日現在

機関番号：３５４１１
研究種目：基盤研究(B)(海外)
研究期間：2008～2012
課題番号：２０４０２０５８
研究課題名（和文）　フランス公立初等学校における教育方法革新運動の系譜
—学校とコミュニティの協働—
研究課題名（英文）　French New Education Movements and Pedagogical Innovations for Primary School Education : Focus on the School-local Community Cooperation
研究代表者
赤星　まゆみ（AKAHOSHI MAYUMI）
福山平成大学・福祉健康学部・教授
研究者番号：５０１５０９７５

研究分野：教育学
科研費の分科・細目：教育学　・教育学
キーワード：教育革新、教育方法、フランス、初等教育、学力、学習期制、プロジェクト学習、異年齢学級教育

１．研究計画の概要

(1) 本研究の主たる目的は、1989 年教育基本法によって導かれた「３つの学習期制」というフランス初等教育（幼小）の独自なシステムが成立した背景とその意味を問うことにある。この学習期制の教育政策は、長い教育実験と教育運動の結果である。このような教育政策に影響を与えた、公立学校における教育方法革新の実験と運動を明らかにする。そのため、このような教育方法革新を先導した実験校の実践の実際を精査し、初等教育の連続性・一貫性や学習の協同性と差異化という方法、また、このイノベーション（革新運動）をともに支えたコミュニティの役割と特質について、「学校とコミュニティの協働」という視点からの検討を試みる。

(2) 本研究の内容的な枠組を以下に述べる。

① 学習期制の法制化に影響した実験的実践校に関する歴史的検討を行い、それらの学校の地域性や教育方法の特質を明らかにする。

② 教育方法の原理として「学習の協同性と差異化」を実践的理論として検討する。すなわち、集団の異質性、及び学習の一貫性・連続性の観点にたつ。この視点から「学習期」の概念と意義を問う。具体的には、「異年齢学級教育」「プロジェクト学習（教育法）」「幼小の連続性」の課題を取りあげる。

③ このような革新的な実験学校を推進した教育研究・教育運動を調べる。

④ 学習期制の法制化(1989 年)以後の教育政策の動向を整理する。

(3) 研究の方法と具体的な取組を述べる。

① フランスにおいて資料収集と観察･聞き取り調査などのフィールド調査を行う。

② フランスの教育実践の当事者を招聘して研究会を開く。研究の国際交流を進めながら、その教育実践の実際・理念・教育方法などを検討する。

③ 文献収集や聞き取り調査によって､研究対象校の沿革と特色、地域コミュニティとの関係などを調べる。

④ 最近の初等教育の政策動向を調べる。

⑤ 収集した文献や映像などを整理・翻訳し、資料化を図る。

２．研究の進捗状況

これまでの主な取組は次の通りである。

(1) フランスでの実地調査

① 2008 年 12 月 11 日~21 日（研究代表者，在仏研究協力者；堀家香織）:パリ都市圏の対象校 3 校、教育団体、パリ市教育庁の訪問、グルノーブル市対象校元教員への調査

② 2009 年 4 月 1 日～5 月 16 日（研究協力者；堀家香織）：ヴゾンシー学校調査（山村部の小規模校）

③ 2009 年 5 月 22 日~6 月 1 日（研究代表者、研究協力者；堀家香織、真嶋正文､岡崎結夏）：ヴィトルーヴ学校調査、グルノーブルの学校訪問と地域調査

④ 2009 年 11 月 17 日~12 月 1 日（研究代表者，研究協力者；西本真理子､岡崎結夏）：ドクロリー学校調査、グルノーブル市地域調査

⑤ 2010 年 3 月 5 日~19 日（研究代表者，在仏研究協力者；岡崎結夏）：異年齢学級教育の公立実験校を訪問（モンペリエ、リール、ボルドー等の地方都市）

⑥ 2010 年 4 月 2 日~24 日（研究代表者）：ヴィトルーヴ学校の宿泊学習の観察調査

⑦ 2011 年 3 月 7 日~17 日（研究代表者）：ブルソー学校と県視学局、およびグルノーブル

市レ・シャルム学校関係者と協議
(2) 研究協力者を招聘して行った研究会
パリ市 20 区公立小学校、ヴィトルーヴ学校の教員（ルメレ氏）を招聘した。（招聘期間：2010 年 10 月 26 日～11 月 2 日）
① 10 月 29 日：国際シンポジウム「子どもの育ちにつながるプロジェクトによる学び―仏独日の事例をもとに」（於：広島大学）（世話人：広島大学教授深澤広明氏）
② 10 月 30 日：広島日仏協会文化講演会「渇きのない馬に水を飲ませることはできない」(映画上映と講演)（於：広島テレビ本館）（世話人：広島修道大学教授白銀敏枝氏）
③ 10 月 31 日：日仏教育学会講演会「子どもの成功をめざす協働的な学校―ヴィトルーヴ学校の教育実践―」（於：東京日仏会館）（世話人：早稲田大学教授石堂常世氏）（研究協力者：鈴峯女子短大専任講師渡辺眞衣子）
(3) 結果の公表
後記の通り、学会発表 5 件を行い、論文 3 件、図書 1 件にまとめた。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
（理由）
20 世紀後半のフランスの公立初等学校での革新的な試みが実験学校を中心に展開され、以後の教育政策に大きな影響を与えたこと、そのようなイノベーションはコミュニティとの協働として実現されてきたこと、とくに初等教育の学習期制導入の背景とその実施経過を明らかにすることに力を注いできた。今のところ、資料入手や、聞き取り調査などが順調に進んでいる。
また、フランスでの実地調査を順調に積み重ね、日本での教育関係者との交流を深めるため、三年目と四年目の二度にわたって招聘研究会を実施することにした。困難はあったが、フランス側の関係者の協力を得ることができ、交流も進んでいる。また、日本国内でも広島大学、日仏教育学会、広島日仏協会などの協力を得ることができた。したがって、おおむね順調に実施できていると言える。

４．今後の研究の推進方策
残された 2 年間の課題は次の通りである。
(1) 2011 年度招聘研究会（7 月末予定）：1989 年教育基本法に規定された「３つの学習期制」につながる異年齢学級教育（マルチエイジ学級）の実践をテーマに取りあげる。
(2) 調査の結果を総括する報告書の作成：二度の招聘研究会の内容、政策文書等の重要な資料の翻訳と収集した資料を基に作成する。2011 年度後半に原稿を整え、2012 年度前半に印刷する。
(3) 2012 年に、研究結果としての報告書と共に最終渡仏調査を行い、関係者からのレビューを受ける。
(4) 2012 年に関係学会での発表を行うことや、専門家への相談などを通じて、日本国内での研究レビューを受ける。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）
① 赤星まゆみ、初等学校教育をめぐる最近の問題―教育高等審議会の「初等学校の総括報告書」（2007 年）を通して―、日仏教育学会年報、第 14 号、159-165、2008，査読無.
② 赤星まゆみ、フランスにおける幼児教育・保育、子どもの文化、第 41 巻 8 号、60-67、2009，査読無.
③ 赤星まゆみ、パリ市立ヴィトルーヴ学校のこと、広島日仏協会報、第 183 号、4-5、2010，査読無.

〔学会発表〕（計 5 件）
① 赤星まゆみ、フランスにおける幼小教育の連続性―小学校の落第問題と教育システムの改革を通して―、日本比較教育学会、2008 年 6 月 29 日、東北大学.
② 赤星まゆみ、フランスの新教育運動と実験学校（1）―グルノーブル市のエコール・デ・シャルムの実践を中心に―、日本教育方法学会、2009 年 9 月 27 日、香川大学.
③ 赤星まゆみ、フランスの新教育運動と実験学校（2）―異学年混成学級の教育実践―、日本教育方法学会、2010 年 10 月 9 日、国士舘大学.
④ 赤星まゆみ、フランスにおける初等学校教育改革の最近の争点 ―幼小移行を中心として―、日仏教育学会、2010 年 10 月 16 日、十文字学園女子大学.
⑤ 赤星まゆみ、フランスにおける地域とかかわる子どもの学び、熊本県生活科・総合学習教育学会、2011 年 1 月 29 日、熊本大学.

〔図書〕（計 1 件）
① 赤星まゆみ、大学教育出版、乳幼児教育 in フランス教育の伝統と革新（フランス教育学会編）、2009、82-90（287 頁）.

〔産業財産権〕

〔その他〕
ホームページ（広島日仏協会報 183 号）
http://www2.ocn.ne.jp/~hiro-nfk/Kaihou183.pdf